
3. 財政需要について

3. 財政需要について

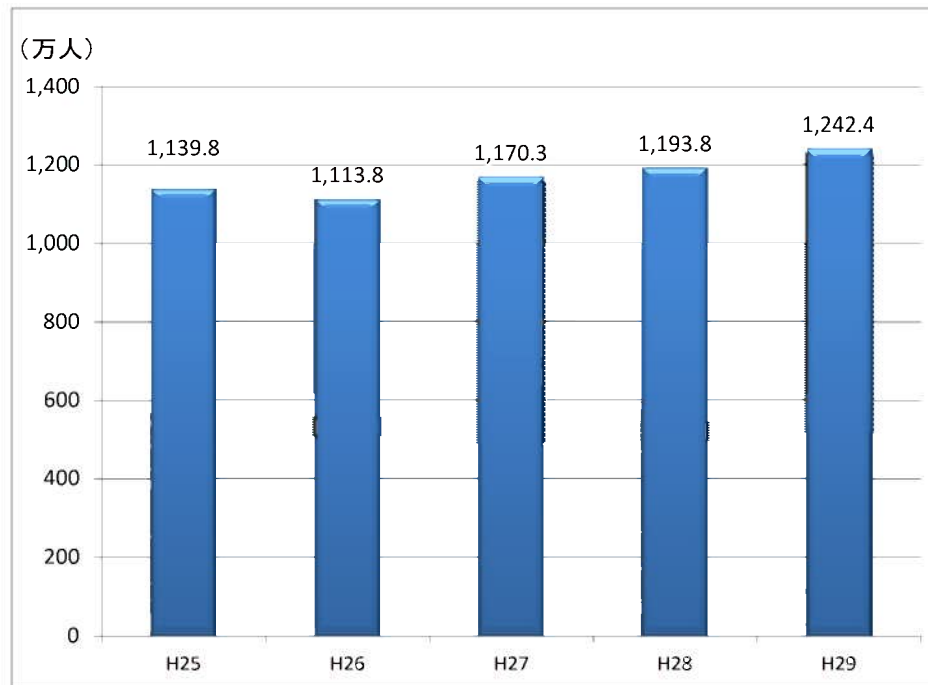
(1)北九州市の観光振興の現状と課題

①観光客数の推移(全体、外国人観光客)(1/2)

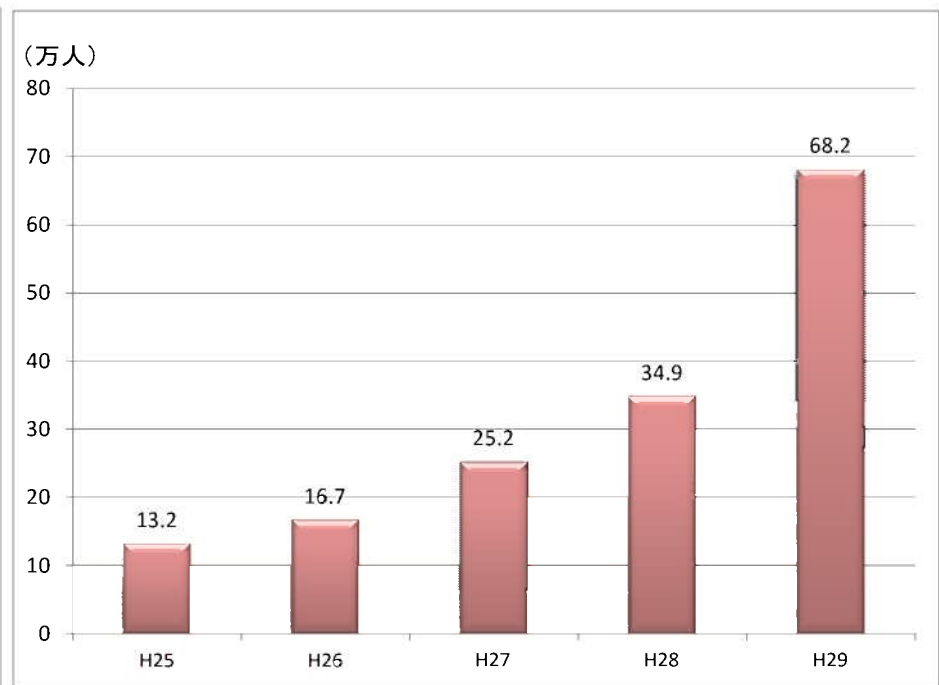
現状と課題

- 北九州市を訪れる観光客数は増加傾向にあり、平成29年には1,200万人を突破した。
- 特に外国人観光客の伸びが著しく、平成29年は平成25年の約5.2倍となっている。これは、日本全体(1,036万人→2,869万人・約2.8倍)、九州全体(167万人→494万人・約4.9倍)を上回っており、今後さらなる増加が見込まれる。(参考:JNTO月別・年別統計データ)

観光客数(実数)の推移



外国人観光客数の推移



資料:北九州市観光動態調査結果

3. 財政需要について

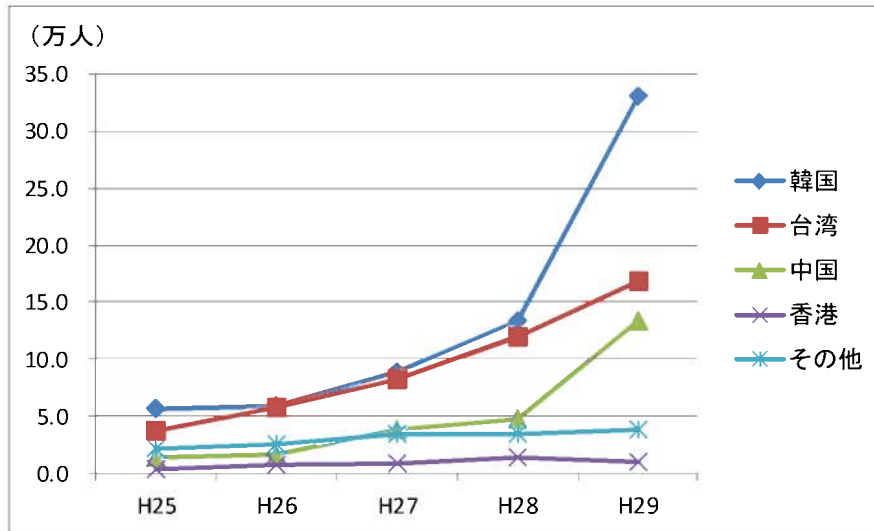
(1)北九州市の観光振興の現状と課題

①観光客数の推移(全体、外国人観光客)(2/2)

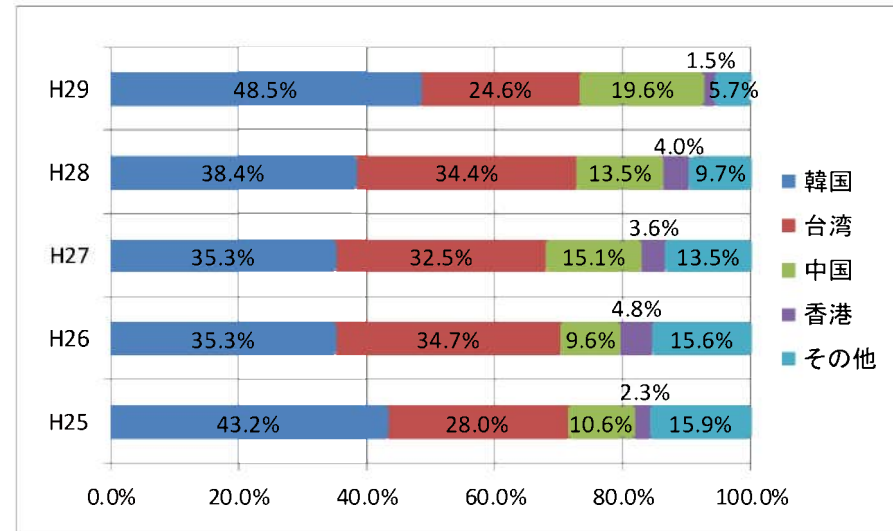
現状と課題

- 国籍別外国人観光客数を見ると、韓国が最も多く、次いで台湾、中国となっている。特に、中国は国際定期便が復活した平成28年以降の伸びが目立ち、直行便就航の効果が表れている。
- このため、直行便のない香港、その他の国籍において、観光客数は横ばいとなっており、今後さらにインバウンド需要を伸ばすためには、東アジアなど就航路線(都市)数を増やしていく必要がある。
- 今後、オリンピック・パラリンピックや大阪万博など世界的なイベントが控えており、外国人観光客の受け皿となる観光施策の充実、強化は喫緊の課題である。

国籍別外国人観光客数の推移



国籍別割合の推移



資料:北九州市観光課「平成29年次外国人観光客数について」

3. 財政需要について

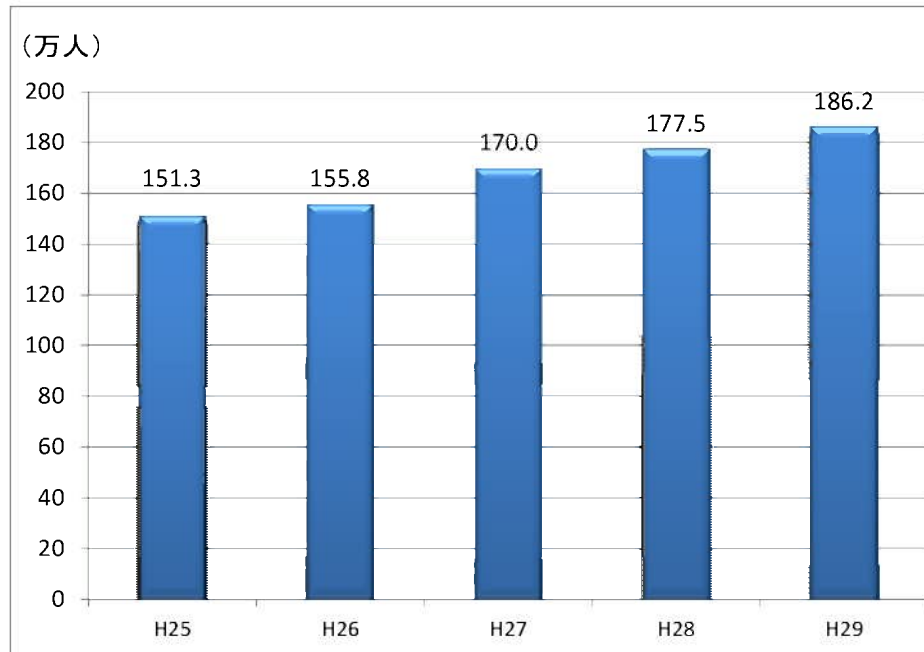
(1)北九州市の観光振興の現状と課題

②宿泊客数の推移(全体、外国人)

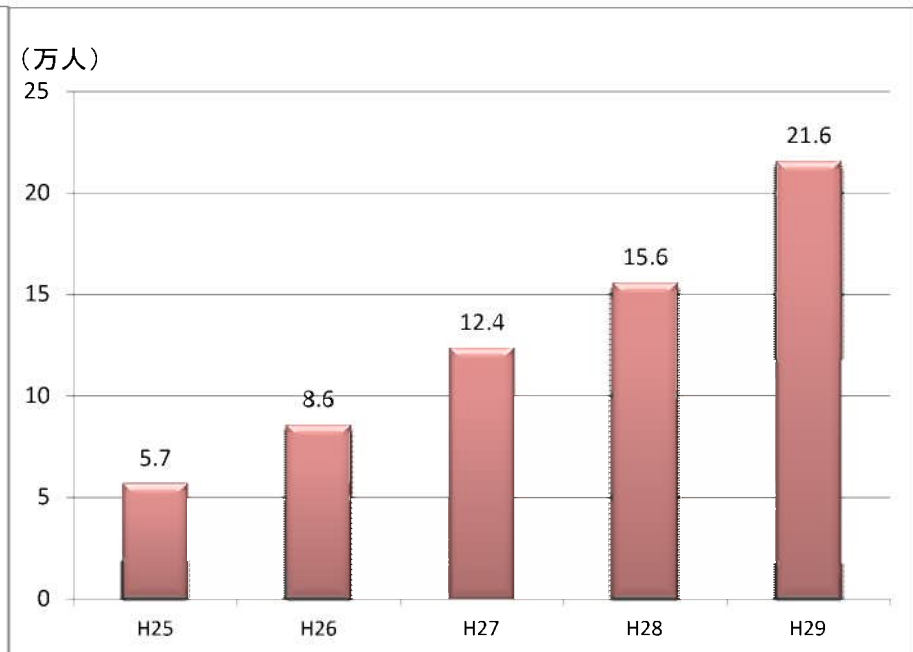
現状と課題

- 宿泊客数も増加傾向にあり、平成29年は平成25年の約1.2倍となっており、観光客数の伸び率(約1.1倍)を上回っていることから、滞在型観光地へ変化を遂げつつあると考えられる。
- 外国人の宿泊客数も同様に増加傾向にある。
- しかしながら、観光客に対する宿泊客数は未だ約15%(外国人観光客については約32%)に留まっており、宿泊者増へ向けた対策が必要である。

宿泊客数(実数)の推移



外国人宿泊客数の推移



資料:北九州市観光動態調査結果

3. 財政需要について

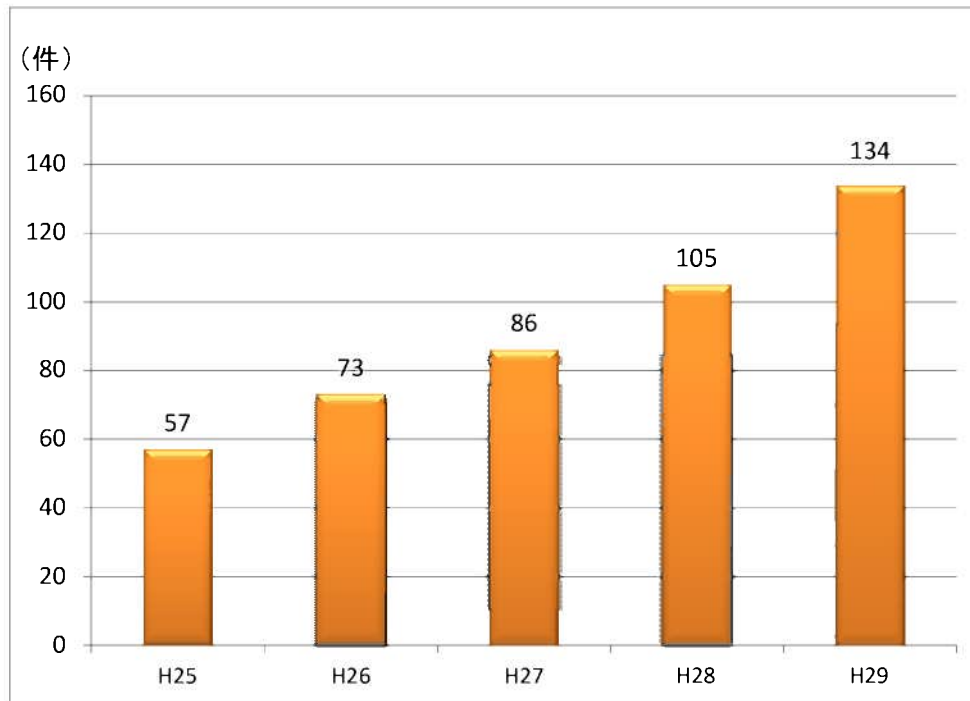
(1)北九州市の観光振興の現状と課題

③MICE開催状況の推移

現状と課題

- MICE開催件数も増加傾向にあり、平成29年は平成25年の約2.4倍となっている。
- 都市別開催件数においても、平成29年は全国8位となるなど、九州において福岡市に次ぐ順位であり、MICE都市としての認知度が飛躍的に向上していると考えられる。
- MICE参加者は、一般観光客に比べ一人あたりの消費額が多いため、地域経済に与える影響が大きく、さらなるMICE誘致策が必要である。

北九州市の国際会議開催件数の推移



日本国内の都市別国際会議開催件数の推移

順位	2013年 (平成25年)		2014年 (平成26年)		2015年 (平成27年)		2016年 (平成28年)		2017年 (平成29年)	
	都市名	件数	都市名	件数	都市名	件数	都市名	件数	都市名	件数
1位	東京(23区)	531	東京(23区)	543	東京(23区)	557	東京(23区)	574	東京(23区)	608
2位	福岡市	253	福岡市	336	福岡市	363	福岡市	383	神戸市	405
3位	横浜市	226	京都市	202	仙台市	221	京都市	278	京都市	306
4位	京都市	176	横浜市	200	京都市	218	神戸市	260	福岡市	296
5位	大阪市	172	名古屋市	163	横浜市	190	名古屋市	203	名古屋市	183
6位	名古屋市	143	大阪市	130	名古屋市	178	横浜市	189	横浜市	176
7位	千里地区	113	千里地区	104	大阪市	139	大阪市	180	大阪市	139
8位	神戸市	93	札幌市	101	神戸市	113	仙台市	115	北九州市	134
9位	札幌市	89	神戸市	82	札幌市	107	札幌市	115	仙台市	120
10位	仙台市	77	仙台市	80	千里地区	94	北九州市	105	札幌市	116
11位	北九州市	57	北九州市	73	北九州市	86	千里地区	85	千里地区	98
12位	つくば地区	51	つくば地区	66	広島市	59	広島市	76	広島市	87
13位	広島市	50	広島市	50	つくば地区	53	つくば地区	50	千葉市	57
14位	奈良市	31	奈良市	45	奈良市	36	千葉市	43	つくば地区	47
15位	千葉市	28	岡山市	33	岡山市	33	奈良市	39	金沢市	35
									岡山市	35

※1 千里地区とは、大阪府の豊中市、吹田市、茨木市、高槻市、箕面市エリアを指す。

※2 つくば地区とは、茨城県のつくば市、土浦市エリアを指す。

3. 財政需要について

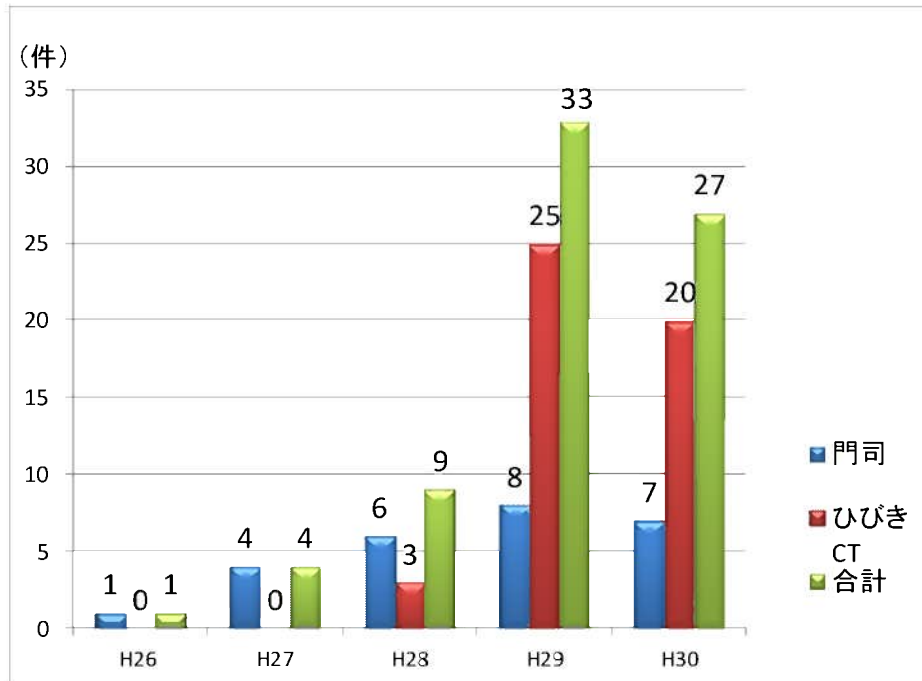
(1)北九州市の観光振興の現状と課題

④クルーズ船寄港回数の推移

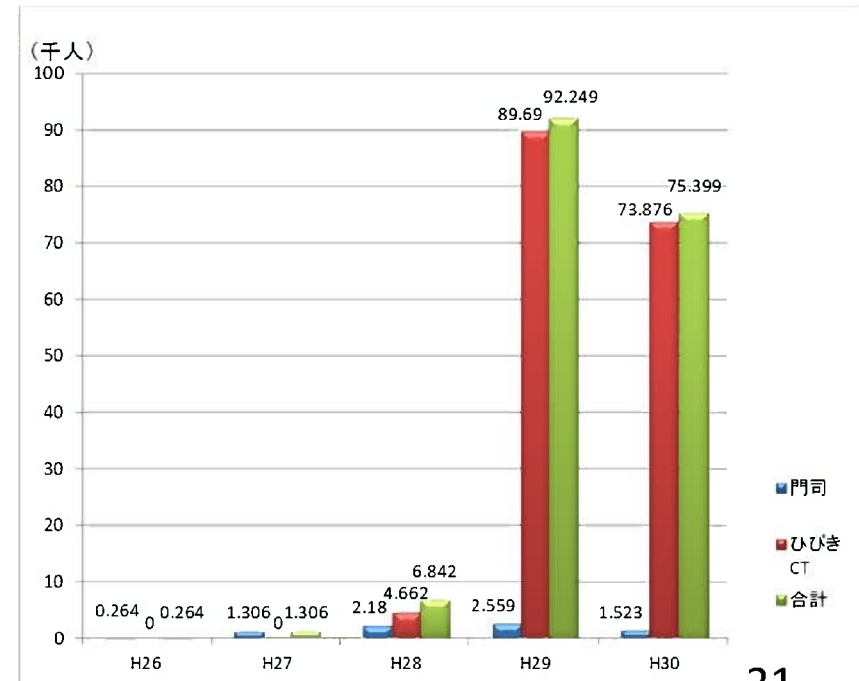
現状と課題

- クルーズ船寄港数について、平成30年に一旦減少したものの、平成31年(令和元年)は9月までで22回寄港予定があり、また、来年以降も既に寄港を予定しているクルーズ船があるなど、需要は衰えていないと考えられる。
- 平成29年度の北九州市の調査によると、クルーズ船乗船客一人あたりの消費額は32,126円と報告されており、クルーズ船の寄港は消費効果をもたらしている。
- 一方、近接する下関市や九州の各県、山陰・山陽地方でもクルーズ船誘致に力を入れ始めており、競争力を維持するため、受入環境整備と誘致対策強化が必要である。

クルーズ船寄港件数の推移



クルーズ船乗船客数の推移



資料:北九州市港湾空港局「クルーズ船寄港数」

3. 財政需要について

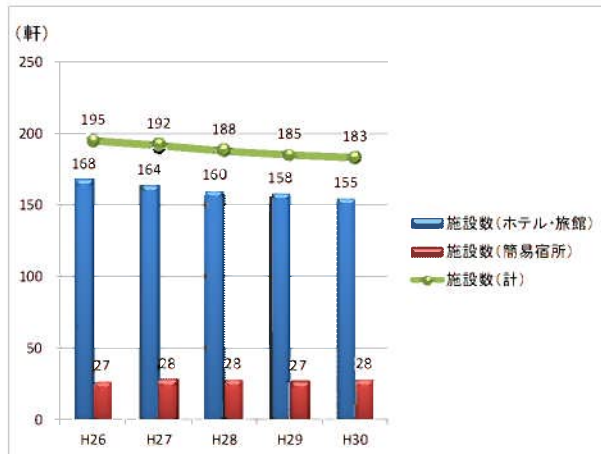
(1)北九州市の観光振興の現状と課題

⑤宿泊施設の推移(施設数)

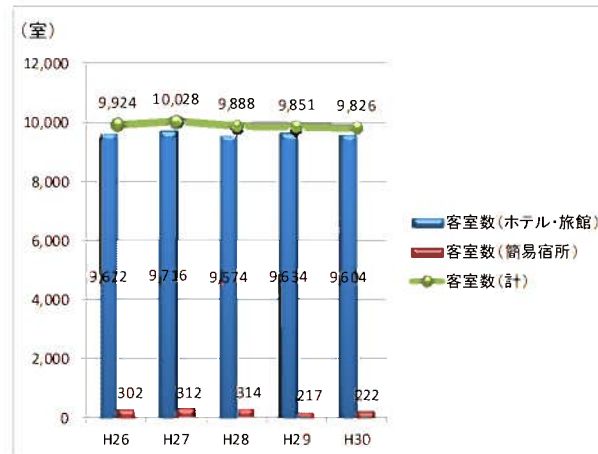
現状と課題

- 全体に、施設数は微減傾向にあるが、客室数、定員は横ばいとなっている。
- 定員と年間宿泊客数から算出した「定員稼働率」は、約59.9%となっており、平均(全国40.5%、福岡県55.2%)より高くなっている。(参考:観光庁「宿泊旅行統計調査」)
- 宿泊客数は今後も増加傾向にあると考えられるため、受入体制を強化し、より多くの宿泊需要を取り込む必要がある。

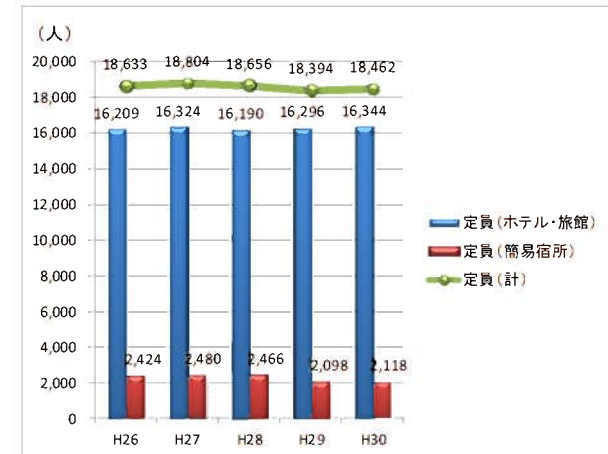
施設数の推移



客室数の推移



定員の推移



資料:北九州市 ホテル・旅館などの情報(施設数、客室及び定員)

3. 財政需要について

(1)北九州市の観光振興の現状と課題

⑥北九州空港の利用状況の推移

現状と課題

- 国内線について、就航路線(都市)数が増加しており、それに伴って利用者数も増加している。
- 国際線について、韓国を中心として就航路線(都市)数、利用者数とも近年飛躍的に上昇している。
- 九州のハブ空港とされる福岡空港は、IATA(国際航空運送協会)が指定する「混雑空港(レベル3)」に指定されており、また、運用時間も限られている。このため、福岡市をはじめとする九州各地へのアクセスが良く、24時間運用可能な北九州空港は、今後、さらなる新規就航、増便が見込まれる。(令和元年6月大邱(テグ・韓国))

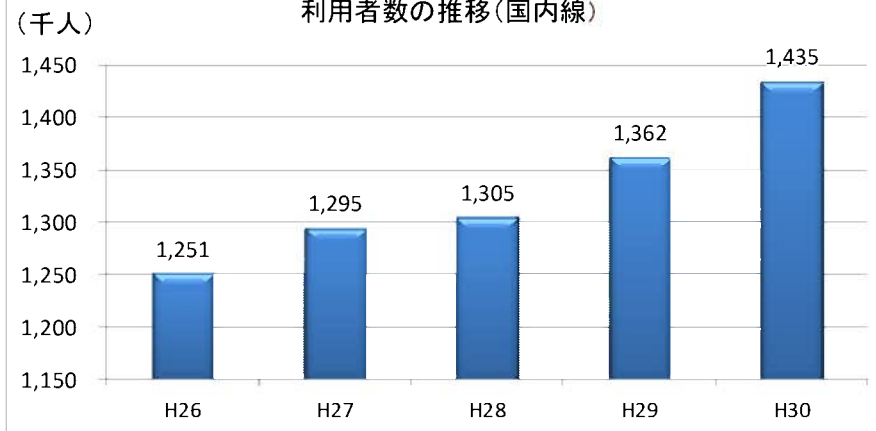
北九州空港の利用状況(国内線)

	H26	H27	H28	H29	H30
利用者数(人)	1,251,187	1,295,419	1,304,833	1,362,400	1,434,890
就航路線数	2	2	2	3	3
就航都市	東京 名古屋	東京 名古屋	東京 名古屋	東京 名古屋 那覇	東京 名古屋 那覇 静岡 <small>*名古屋便は H31.3.30まで</small>

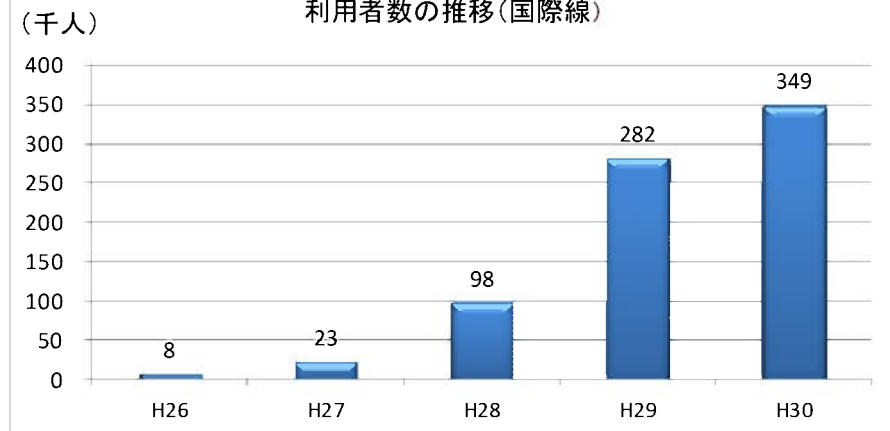
北九州空港の利用状況(国際線)

	H26	H27	H28	H29	H30
利用者数(人)	7,592	22,591	97,963	281,694	348,542
就航路線数	0	0	3	3	6
就航都市	チャーター便	チャーター便	釜山(韓国) 仁川(韓国) 大連(中国) <small>*チャーター便含む</small>	釜山(韓国) 仁川(韓国) 大連(中国) <small>*チャーター便含む</small>	釜山(韓国) 仁川(韓国) 大連(中国) 務安(韓国) 襄陽(韓国) 台北(台湾) <small>*チャーター便含む</small>

利用者数の推移(国内線)



利用者数の推移(国際線)



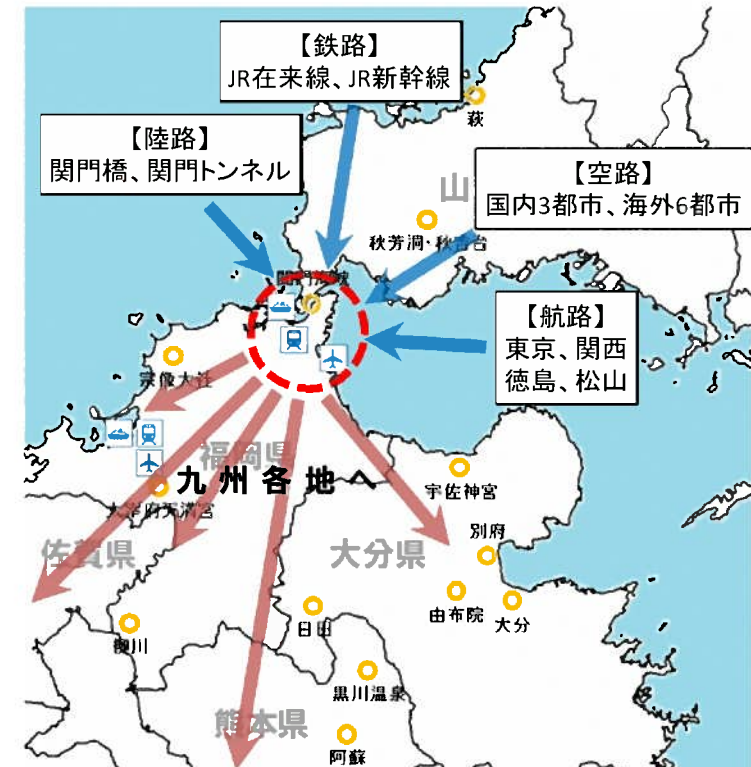
3. 財政需要について

(1)北九州市の観光振興の現状と課題

⑦九州のゲートウェイとしての北九州市(1/2)

現状と課題

- 北九州市は本州及び海外からの交通機関が多様に存在し、また、九州各地への交通機関も複数あるため、北九州市を九州での出発点とし、特に北部九州を周遊している様子が見受けられる。
- また、福岡市への移動手段は、JR(在来線、新幹線)に加え、1日100往復を越える高速バスも運行されており、利便性が高い。
- 北九州市を訪れた外国人観光客は、北九州市を起点に北部九州各地を観光している。
- 観光庁が認定する「温泉アイランド九州・広域観光周遊ルート」にも含まれている。
- このようなことから、北九州市は九州のゲートウェイとして高い機能を有していると考えられる。



小倉駅からの九州各地へのアクセス
【JR在来線】博多方面、別府・大分方面、田川方面
【JR新幹線】大阪・京都方面、博多・熊本・鹿児島方面
【高速バス】天神・博多方面(124往復/日)
大分方面(4往復/日)
熊本方面(3往復/日)
鳥栖方面(2往復/日)
長崎方面(5往復/日)

3. 財政需要について

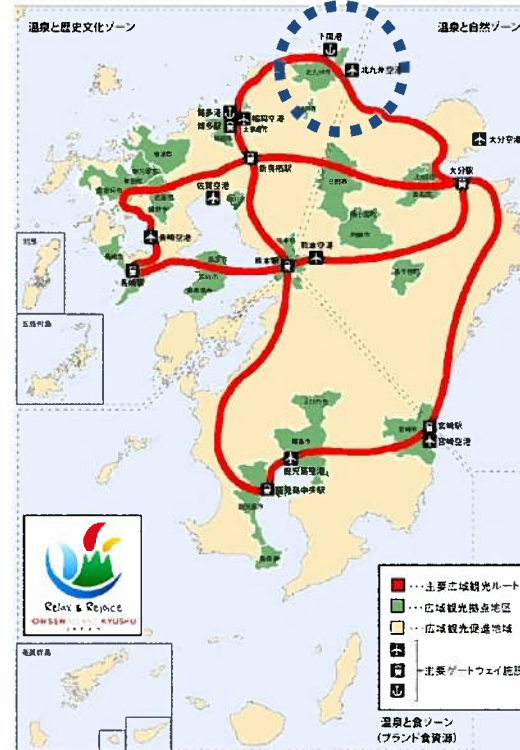
(1)北九州市の観光振興の現状と課題

⑦九州のゲートウェイとしての北九州市(2/2)

北九州をゲートウェイとした観光客の九州北部における周遊イメージ

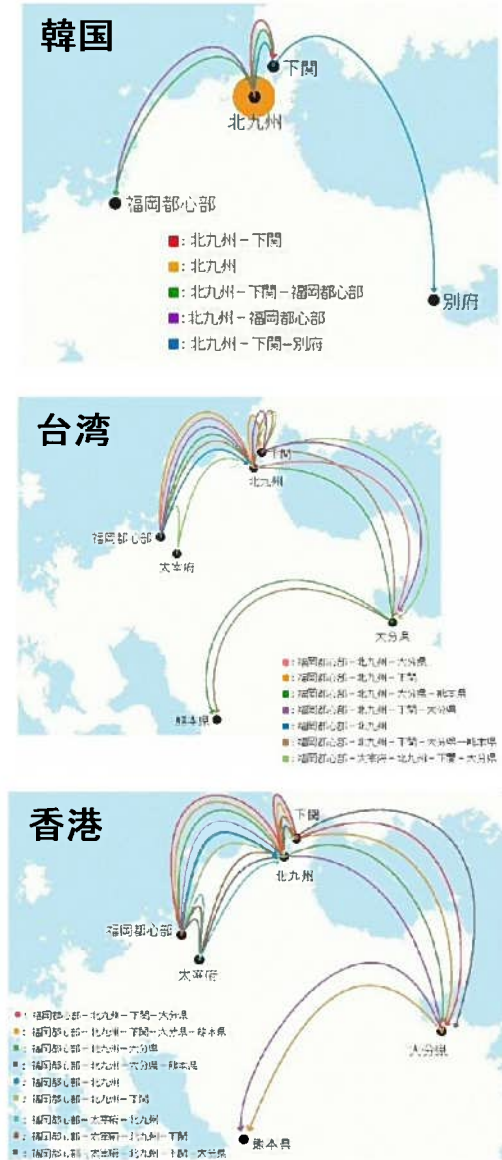


広域観光周遊ルート「温泉アイランド九州」



資料：観光庁「広域周遊観光ルート形成計画概要」

北九州市を訪れた外国人旅行者の主な行動パターン



資料：平成30年5月22日北九州市観光課「観光やMICEによる来訪者の消費喚起について」

3. 財政需要について

(1)北九州市の観光振興の現状と課題

⑧これまでの主な観光機能整備等の概要(ハード面)

施設整備関連(MICE)

MICE施設建設費(約216億円)

西日本総合展示場本館(昭和52年)、北九州国際会議場(平成2年)、西日本総合展示場新館(平成10年)

施設整備関連(観光)

門司港レトロ施設等整備費(約425億円)

「旧門司港三井倶楽部」等の歴史的建造物保存活用、関門海峡ミュージアムの整備 など

施設整備関連(観光)

小倉城周辺魅力向上事業費(約16億円)

小倉城天守閣展示リニューアル、小倉城のライトアップ、飲食物販施設整備 など

施設整備関連(世界遺産)

世界遺産眺望スペース等整備費(約1億円)

眺望スペースの整備・充実、トイレ・駐車場の確保、世界遺産の保全 など

施設整備関連(空港)

新北九州空港整備費(約129億円)

新北九州空港の整備に係る地元負担金(北九州市負担分)

施設整備関連(港湾)

新門司フェリーターミナル整備費(約2億円)

新門司フェリーターミナルの埠頭用地や関連施設の整備 など(令和元年度分)

3. 財政需要について

(1)北九州市の観光振興の現状と課題

⑧これまでの主な観光機能整備等の概要(ソフト面)

MICE関連

MICE開催助成金(約0.7億円/年)

大規模MICEの開催を助成

MICE関連

MICE施設管理費(約3億円/年)

西日本総合展示場(新館)、北九州国際会議場の指定管理料

案内所・施設関連

観光案内所運営に係る費用等(約0.4億円/年)

小倉駅、門司港駅、北九州空港

案内所・施設関連

観光施設管理運営に係る費用等(約5.5億円/年)

小倉城、小倉城庭園、平尾台、皿倉山、門司港レトロ など

クルーズ関連

クルーズ船受入・誘致に係る費用等(約1億円/年)

ひびきCT本部等設置業務、安全対策業務、シャトルバス運行業務、タグボート補助金 など

空港関連

北九州空港の新規路線就航促進に係る費用等(約7億円/年)

運行助成、PR活動、航空会社セールス、空港アクセス利便性の維持・向上、空港整備事業地元負担金 など